

令和6年度 御殿場市議会 経済環境委員会 行政視察報告書

1. 日程 令和6年10月8日(火)～10月10日(木)

2. 視察先及び視察事項

(1) 熊本県山鹿市

○農業支援プロジェクトについて

(2) 熊本県荒尾市

○おもやいたクシー事業について

(3) 熊本県玉名市

○玉名市未来プロジェクト賑わいのまちづくり地域交流活性化支援業務について

(4) 熊本県熊本市

○イノベーション創出プロジェクトについて

3. 参加者

委員長 勝間田 博文

副委員長 永井 誠一

委員 森 順 後藤 真弥 辻川 公子

勝又 正人 田代 耕一

当局 遠藤 英樹 (産業スポーツ部農政課長)

事務局 浅子 菜美 (議事課副主任)

4. 視察先対応者

(1) 熊本県山鹿市

農業振興課 担い手支援係 係長 山口 儀一郎 様

農業振興課 J A鹿本地域担い手センター センター長 徳永 俊彦 様 ほか

(2) 熊本県荒尾市

総合政策課 課長 中山 創 様

総合政策課 政策推進室 室長 林田 真司 様 ほか

(3) 熊本県玉名市

都市整備課 課長 中尾 賢治 様

都市整備課 課長補佐兼まちづくり推進係長 森田 文子 様 ほか

(4) 熊本県熊本市

起業・新産業支援課 課長 野口 新太郎 様

起業・新産業支援課 主事 姫野 寛司 様

## 5. 視察の内容

### ■農業支援プロジェクトについて

日時：令和6年10月8日（金） 午後 2時00分～午後 2時30分（山鹿市役所）  
午後 3時00分～午後 3時30分  
（JA鹿本地域担い手育成センター）

場所：山鹿市役所議会棟 及び JA鹿本地域担い手育成センター

#### 視察の目的

本市における農業の担い手育成に活かすため、JA鹿本地域担い手育成センターの現地視察をさせていただきながら、農業支援プロジェクトについて学ぶ。

#### 視察先の概要

熊本県の北部に位置し、北部は筑肥山地、中央南寄りを流れる菊池川流域に田園地帯を形成している。九州自動車道菊水ICや植木ICから約20分ほどの距離にあり、長い歴史を持つ温泉や公衆浴場も多数点在している。

人口：48,349人 議員定数：20人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：339億6,900万円

#### 視察の内容

山鹿市役所では、山鹿市の農業の現状、山鹿市担い手育成総合支援協議会、就農までの道筋、未来のリーダーづくり支援事業、農業機械免許等取得補助事業、地域農林業担い手育成支援事業、栗の選定支援事業、山鹿市有害鳥獣電気防護柵設置補助事業、就農する為に必要な5つの要素(①栽培技術②経営感覚③就農基盤④営農資金⑤収納環境)、鹿本地域の収納体制について学んだ。

現地視察では、地域担い手育成センターの目的、事業内容、育成プログラム、施設概要、研修指導体制、研究カリキュラム、研修生募集要項について、担当者から説明を受けた。

#### 考察

●未来のリーダーづくり支援事業は、専業農家の後継者として新たに就農する者に対して、年間150万円を最長3年間支援する山鹿市独自の施策である。国の新規就農者への支援事業において対象外となる者も、当支援事業では対象としている。農業経営の継承や発展に寄与しており、本市にとっても参考になると感じた。

●農業機械免許等取得補助事業は、市内に6カ月以上住所を有した認定農業者等に対し、大型特殊免許、けん引免許及び農業用ドローンオペレーター技能認定を取得する際

の各種講習の受講料等を支援するものであり、また、令和元年に実施された道路運送車両法の運用見直しにより、急増した受講申し込みにも適切な対応しているところも参考になった。

●鹿本地区では、JA、行政機関及び地域農業者が連携し、就農相談から農業体験、研修、就農、さらには定着に至るまでの一貫した支援を提供している。この連携により、地域内での農業振興が進み、新規就農者の定着が促進され、一貫したサポート体制を構築しており、その包括的なアプローチは大変参考になった。

●地域担い手育成センターは、開設6年で26人の卒業生を輩出している。本年度から卒業生が研修生の相談に応じるメンター制度を導入し、コミュニティ形成においてもきめ細やかな支援を実施しており、農業振興における地域一体型の支援システムの重要性を再認識する事が出来た。

●当市もJAと連携する事により何を栽培していけば良いのか検討していく必要があり、農業用施設の貸し借りマッチングを行なえば、経費が安く済むので、良い取り組みであると感じた。



## ■おもやいタクシー事業について

日時：令和6年10月9日（水） 午前10時00分～午前11時30分

場所：荒尾市役所議会棟

視察の目的

本市における移動手段の確保とDXの推進に活かすため、路線バスやタクシー事業を補完する、荒尾市における新しい公共交通機関のAI（人工知能）技術の活用について視察する。

視察先の概要

熊本県の西北部に位置し、東は小岱山がそびえ、西は有明海に面する。近隣市への通勤者も多いベッドタウンの側面を持ち、世界文化遺産に含まれる「万田坑」など観光資源も所在している。

人口：49,550人 議員定数：18人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：263億6,000万円

視察の内容

令和2年から実施した市内全域のオンデマンド相乗りタクシー（以下おもやいタクシー）事業の経緯・実績・展開をヒヤリングし、座学での説明を受けた。

●おもやいタクシー導入の経緯は、平成29年に連携協定が締結され、平成30年と令和元年に実証実験を実施し、路線バスとのすみ分けが可能との判断から実施に至った。

●おもやいタクシーの実績は、令和2年10月に本格実施して以降、利用者は増加傾向。令和5年の月間利用者数は、1,287人で相乗り率も約3割までに上昇した。

●事業の展開は、アプリの導入や夜間利用の実証実験、免許返納サービス、車両台数の追加等。

●子育て世代の習い事送迎サービスの実施。（小学4年生から中学3年生）



## 考察

- A I を積極的に活用し、タクシーの効率的な運用により事業が軌道に乗り、多くの市民の買い物・通院などに利用されている点が参考になった。
- タクシー事業者やバス事業者との話し合いを重ね、信頼関係を確立することにより、産学官の積極的な連携により至った。社会的な共通課題を明確にし、解決に向けた取り組みには大いに参考にしたい。
- 本事業は、面積がコンパクトな市の特性に立脚した事業であり、当市に制度をそのまま導入することは困難であると思料されるが、A I 活用によるオンデマンド相乗りタクシーは検討する価値は十分あると考えられる。

## ■玉名市未来プロジェクト賑わいのまちづくり

### 地域交流活性化支援業務について

日時：令和6年10月9日（水） 午後14時00分～午後15時30分

場所：玉名市役所議会棟

視察の目的

当市におけるまちづくりのなどの取組に活かすため、玉名市におけるにぎわいの創出や市内の回遊性の向上策について視察する。

視察先の概要

熊本県の北西部に位置し、北部と東部は小岱山や金峰山系に囲まれ、南西は有明海に面する。鉄道の開通とともに発展し、現在は九州新幹線の新玉名駅も整備され、130年の歴史をもつ玉名温泉が所在している。

人口：63,029人 議員定数：22人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：347億7,800万円



## 視察の内容

「こんな玉名市であって欲しい」と願う市民の意見や希望をもとに、10年後の将来図を行政と市民や企業・団体の意見を取り入れ、共に創りまとめたまちづくりの羅針盤を作成している。大きく6つのエリアに分けられ、エリアに必要な機能をまとめている。玉名市まちなか未来プロジェクト、玉名まちなかランドデザイン原案、まちづくりの基本方針、玉名市まちなか未来プロジェクトの組織体系、官民連携まちなか再生推進事業、都市・地域交通戦略推進事業、都市構造再編集集中支援事業、まちなかウォークブル推進事業、公共施設等適正管理推進事業、出前ワークショップについて、座学で学習した。玉名まちなかランドデザイン原案は、キャッチコピー：WAKU×ワク×湧く～わくわくが湧くまちづくり～。メインターゲットは、玉名の未来を担う人。まちづくりの4つのコンセプトは、ここちよさの創出(快適な生活環境)、ワクワクの創出(にぎわい)、「かたる」場の創出(交流)、やりがいの創出(仕事・企業)となっている。

## 考察

●玉名市が掲げるプロジェクトの目標は、①市中心部の活力と魅力の向上②中心市街地への人口集積③市民の健康増進と生活の質の向上④にぎわいのある街づくりの実現という4点に集約される。これらの目標は、本市が直面している課題とも共通する部分が多く、その取り組みは大いに参考になるものであった。

●まちづくりの基本方針は、行政と民間が連携し、「共に考え、共に動き、共に創り出す」ことを重視している。また、市民の自由で活発な意見を引き出すため、市民が自ら参加し、考え、行動することを重要なコンセプトと位置付けている点に共感を覚えた。

●玉名市立地適正化計画は、居住誘導区域と都市機能誘導区域を設定することで、コンパクトなまちづくりを推進している。まちなかの求心力を向上し、利便性の高いエリアに人口を集積し、更には拠点間のネットワーク確保に繋げていくものである。歩いて暮らせるまちづくりの推進、空き家の利活用による玉名駅周辺への居住誘導促進、公共交通の再編検討、パークアンドライドの推進が誘導施策として挙げられる。本市も見習う必要があると強く感じた。

●玉名市まちなか未来プロジェクトは、行政と民間が連携しながら進めている。その組織体系は、行政側が「玉名市まちなか未来プロジェクトチーム」、民間側が「玉名市まちなかプラットフォーム」を担っている。大目的のため、様々な分野で様々な緊密な連携の下、全身全霊で対応しているところに感銘を受け、大いに参考にすべき事であると痛感した

●公共施設等適正管理推進事業は、施設の更新や統廃合・長寿命化などを長期的な視点で進める為に、「公共施設等適正管理推進事業債」を活用することで推進している。コンパクトシティの形成に向けた立地適正化に積極活用していく玉名市の姿勢を見習う事も必要であると思料する。

## ■イノベーション創出プロジェクトについて

日時：令和6年10月10日（木） 午前10時00分～午前11時30分

場所：くまもと森都心プラザXOSSPOINT.（熊本市）

### 視察の目的

当市における起業・創業等の取組みに活かすため、若者が興味ある先端分野の企業を招致する事業と、空きスペースが増加する商店街のリノベーションを進める事業を一体的に展開している施策について視察する。

### 視察先の概要

熊本県の西北部に位置し、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯で、西部は白川の三角州で形成された平屋からなる。水が豊富な地であり、産業は第3次産業が主体だが、野菜・果実などの農業も盛んであり、農業産出額は国内上位である。

人口：1,698,070人 議員定数：48人【R6.4.1時点】

令和6年度一般会計当初予算額：4,014億2,000万円

### 視察の内容

熊本市が実施しているイノベーション創出プロジェクトについて、XOSSPOINT.での現地視察とヒヤリングを通じて熊本版スタートアップエコシステムの4つの取組について教示を受けた。

- ①肥後創生塾や各種イベント・伴奏型支援などによる起業家の発掘・育成の強化
- ②コーディネータによる支援や提言と実証実験をサポートするなど産学案の強化
- ③スタートアップ支援施設XOSSPOINTの設置による起業家の誘致と推進協議会参加による自治体連携強化
- ④支援企業と連携し、起業に関わる多くの課題を解決に向けサポートする体制強化

### 考察

- 起業に至る様々なフェーズに対し、数多くの事業やプログラムを用意し、きめ細かく対応している一貫性と総合性が大変参考になった。
- 支援を助成金や場の提供に限定せず、起業を志す若者が直面する具体的な課題への相談体制を構築し、精神面もサポートし、交流にも力点を置いている点が素晴らしいと感銘した。
- 直ぐに同様の事業展開する事は困難であるが、本市においても御殿場100人ミライ会議などにより多様な人達が思いアイデアを共有する土壌がある。支援企業や企業を志す若者の意見を聴き、支援・交流体制を順次構築することにより、街の活性化に繋げて

いきたいと思料する。

●クロスポイントの名前の示す通り、「企業を目指す人、歩みを進める人、支える人がここで交わり、共に新しい社会を作り出す起点となる」確固たる目的意識がここにあった。現在、御殿場市でも、中心市街地活性化、創業支援、空き家・空き店舗対策として官民挙げて推進する段階であり、いよいよ次のステップに進むにあたり、今回の産学官を巻き込んだ創業支援体制は大いに参考になった。

